

2024年度第1回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月23日 (土)				
●会場	はびきのコロシアム				
●講師	黒岡 和哲 様 / 茅野 修司 様 / 細見 竜太 様 北村 仁 様 / 大倉 哲也 様 / 太田 令菜 様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土) 9:15 開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 11:15 ~				
対戦カード	大阪薫英女学院高校		VS	千葉経済大学附属高校	
主審(CC)	重松氏	副審(U1)	伊達	(U2)	中川氏
講師/主任	茅野 修司 様 / 細見 竜太 様				
講評	<ul style="list-style-type: none">・クルー3人でコツコツと判定を積み重ねていきながら、試合を進めていけたのが良かった。各々にいい判定が見られた。・ベンチコントロールをするために何かしらのアクションを起こして欲しかった。TFでもベンチに監督を戻すにしろ現場で吹いているレフリーが選択していく必要があるのでは、自分なりの答えを出して欲しい。・プライマリ・セカンダリの意識をもち、不要な笛を減らして欲しい。マージナルでいいケース、サーダリーであるケースをケイデンスできるように。・ファウルのPOCをもう少し精査して判定する必要がある。				
自己の感想	今回の試合を担当させていただいた試合では、CCMを出すべきところで出せなかったのが大きな反省です。講師の方に「現場で判定しているレフリーがその場で判断して行動を起こす」というアドバイスをいただいたので、自分が現場でどういう行動をするべきなのかもっと考える必要があると感じました。 ゲームの中での接触を瞬間的に判定してしまい、マージナルを活用できていない場面がありました。接触後の影響をしっかりと解析し、マージナルなのかファウルとして判定すべきなのかを判断する能力をさらに磨いていきたいと思いました。プレカンからクルー3人で協力し一試合を進められたのはとても良かったです。クルーと情報を共有しながら試合を進めていくことの大切さを改めて感じることができました。 研修会を開催していただきました協会の方々、ご指導して下さったIRの方々、大会運営に尽力していただきました高体連の役員の方々に御礼申し上げます。				

2024年度 第1回 ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月22日 (金) ~		令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロセアム				
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 細見 竜太 様 北村 仁 様 大倉 哲也 様 太田 令菜 様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土) 9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 11:30 PGC 12:45 トスアップ 16:00 終了				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 12:45 ~				
	対戦カード	東海大学付属相模高等学校 VS		箕面学園高等学校	
	主審(CC)	北野 謙吾氏	副審(U1)	山口 翔	(U2) 増田 知真氏
	講師/主任	黒岡 和哲 様 大倉 哲也 様			
	講評	1ゲームお疲れ様でした。クルー3人共通のコメントとさせていただきます。留学生にどのように対応するのがポイントとなる試合だったように感じました。クルーとして意識して臨んでいたとは思いますが、終始留学生がフラストレーションを溜めていたのではないのでしょうか。なぜそのような展開になったのか、東海大相模のDefに対して、コールをして、クリーンにゲームを進めることができなかつたかを映像で振り返ってみてください。2Q447にあったGT/B1の ケースや他の場面においても、何かしらのコールがあった後に、すぐにコート上への意識を弱めるのではなく、確認を最後まで行なってください。また、トラベリングやダブルドリブルをコールしたケースについても、本当に成立していたのかを映像で振り返ってください。今回の研修で感じた課題などをクリアして、さらなる成長に期待しています。			
	自己の感想	試合を通して、留学生周りのファールをクルーとして協力して吹くべきであった。自分でも軽いコールを吹いてしまうことがあったので、見極めてマージナルとしてノーコールにするべきものが多くあった。tempo setとして最初に基準を示すべきでした。 インタフェアレンスに関して、自分のポジションはLでしたが、最後までコート上への意識を向けるべきでした。 より判定力を向上させる必要があると感じました。最後になりましたが、本研修会開催にあたり、ご指導を賜りました近畿IR部会・大阪府審判委員会インストラクターの皆様へ心より御礼申し上げます。また、本大会へ参加させていただきました、大阪府審判委員会の皆様へ心より御礼申し上げます。大会準備やTOを行っていただきました関係者の皆様、並びにチーム関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。			

2024年度 第1回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月22日 (金) ~		令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロシアム				
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 細見 竜太 様 北村 仁 様 大倉 哲也 様 太田 令菜 様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土) 9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 11:30 PGC 12:45 トスアップ 16:00 終了				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 12:45 ~				
対戦カード	東海大学付属相模高等学校		VS	箕面学園高等学校	
主審(CC)	北野 謙吾氏	副審(U1)	山口 翔氏	(U2)	増田 知真
講師／主任	黒岡 和哲 様 大倉 哲也 様				
講評	<ul style="list-style-type: none">・留学生にどのように対応するかがポイントとなる試合だった中で、終始留学生がフラストレーションを溜めてしまうゲームだった。・留学生に対しての守り方をもっと分析してゲームを進めていくべきだった。・2Q中盤に、留学生がリングをつかんでいたが、それを情報として持っていたか、3人ともコート上の意識を弱めてしまっていた。・3Q終盤に留学生が相手選手の上に跨いでしまう状況になる前のコンタクトはどうだったのか。・なにかしらのコールがあった後に、すぐにコート上の意識を弱めるのではなく、確認を最後まで行ってほしい。・トラベリングやダブルドリブルが本当に成立していたかどうか振り返ってほしい。				
自己の感想	<p>1試合を通して、留学生に対してのコンタクトがコールしきれなかったと感じました。PGCやゲーム内でも気にはなっていたものの、コンタクトをマージナルとしてゲームを進めていく展開になりました。2Q中盤に留学生がリングをつかんだ現象では、コールをした後に、コート上の意識を少し弱めてしまい、シュートが決まらなかったことだけを確認して、レポートしてしまいました。本来であれば、シュートをカウントにしてワンショットとして処置をするべきでした。</p> <p>Fコールとしては、終始落ち着いて判定はできていたように感じましたが、マージナルとしてコールしなかったケースや、マージナルとできるコンタクトをコールしてしまったりと判定の精度を上げる必要がありました。</p> <p>また、コールをした後は、より一層コート上に目を向け、意識するべきと改めて感じました。</p> <p>最後になりましたが、本研修会開催にあたり、ご指導を賜りました近畿IR部会・大阪府審判委員会インストラクターの皆様へ心より御礼申し上げます。また、本大会へ参加させていただきました、大阪府審判委員会の皆様へ心より御礼申し上げます。大会準備やTOを行っていただきました関係者の皆様、並びにチーム関係者の皆様へ心より感謝申し上げます。</p>				

第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月23日 (土)				
●会場	はびきのコロセラム				
●講師	黒岡和哲 様、茅野修司 様、細見竜太 様 北村仁 様、大倉哲也 様、太田令菜 様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 9:45 ~				
	対戦カード	阪南大学		VS	東海大相模
	主審(CC)	河崎 亮介	副審(U1)	平出 圭佑	(U2) 吉田 拓哉
	講師／主任	大倉哲也 様 ・ 北村仁 様			
	講評	ファーストコールはその日のクルーを印象付けるものになる。それだけ出だしと終わり方は見る人の印象に強く残ることを意識しておく。前半は東海大相模に、後半は阪南大にファウルが偏ってついてきたがクルーで共有できていたか。そこを踏まえて、マージナルとできたものがなかったかを振り返ってみてほしい。SCRでコールしたものと、しなかったものについて、その違いをクルーで共通認識を持っていたか。判定の基準をクルーで共有してレフェリングすることが大切。フリースローのレーンヴァイオレーションがあった時にクロックが流れることはあるあるのケース。起こりうることを事前に予測してクロックを確認する癖を普段から持っておいてほしい。処置について難しいケースがあったが、TFがチームファウルに加算されるものなのかといったことを1つひとつ丁寧に把握・確認することが大切。処置は間違っていなかったが、状況をクルーでしっかり認識できていれば良かった。年齢的にもA級としての即戦力を求められる。ちょっと上手いB級ではダメ。だからこそ、今年度間違いなくトレンドになるヘルプディフェンダーなどへの準備をしっかりしてくるかどうか。審査があるとわかっているように準備していないの？と思われぬように。そういうところや細かかもしれないけれど、DOGやダブルドリブルのヴァイオレーションをしっかり処置して「まあいいか」で終わらせないように、1つひとつこだわってほしい。			
自己の感想	自身の課題であるマージナルコールに取り組むために「発見→分析→決断」のフェーズにトライしてきた。概ね明らかなものをコールできた反面、マージナルとすることができたものもあり、まだまだ分析を極めていって判定の精度を上げていかなければならないと感じた。メカニクスについては無駄な動きが「動きながらの判定」になってしまっている場面があり、プレイの予測と事前のポジションアジャストができるように改善していきたい。デュアルカバレッジでダブルコールになっているものやヘルプディフェンダーの場面でダブルコールになっているものについて、Primaryの判定を待って飲み込むこともできるようにしていく。A級としての即戦力にこだわってトライしていきます。本研修会に参加させていただき、ありがとうございました。				

2024 年 第 1 回 ステ ッ プ ア ッ プ 研 修 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月22日 (金) ~		令和6年3月23日 (土)		
●会場	羽曳野コロシアム				
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、北村 仁様、大倉 哲也様、太田 令菜様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式(予定) 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 9:45 ~				
	対戦カード	箕面学園		VS	近大附属
	主審(CC)	池嶋一幸氏	副審(U1)	貝崎壘斗	(U2) 藤内拓真氏
	講師/主任	黒岡和哲 様			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生が起こすコンタクトや、されるコンタクトに対しての意識は1gameを通して感じられた。一方で、そこで起きるコンタクト全てがファウルということではなく、接触・責任・影響まで見届けて成立したものにのみコールが必要である。 ・marginalあるいは、ノーファウルのものに対してもタイムリーにコールされるケースが散見された。長く分析する時間や余裕を持つ必要がある。 ・微妙なトラヴェリングのケースをコールする必要はないが、明らかなヴァイオレーションに笛が入らないということはそこに意識が向いていないということである。 ・判定に関する異論表現や、アシスタントコーチによる留学生に対する叱責にはTFを適用しても良かったのではないだろうか。 ・OOBでは見ている場所はポジションで勘違いしたり、間違えたりする事もゲーム中には起こる。勘違いや間違いが起こった時にヘルプ・アシスト出来る様にプライマリ任せにならずに情報を持つ事で正しい判定につなげてほしい。 			
	自己の感想	<p>PGCでは両チームにビッグマンがいるので、特に留学生に対してはクルーで意識を持って判定することを確認しました。1ゲームを通してビッグマン同士はケアできていましたが、そこで起きるコンタクトに過敏になってしまいマーギナルでノーコールにするケースや、ノーファウルのものにもジャストで笛が入ってしまいました。そのため、patientして本当にコールが必要だったのか映像で分析したいと思います。積極的に判定したり、こだわって判定したりすることは時には必要ですが、より正しい正解を、誰が見ても分かるobviousなケースにのみ笛が入らなければゲーム運営にも支障をきたし、チームやプレーヤーもゲームに集中できなくなります。Basicに立ち返り明らかなヴァイオレーション、ファウルをルールブックやガイドラインに沿って判定していくその積み重ねがゲームコントロールに繋がると学びました。最後になりましたが、年度末のお忙しい中第1回ステップアップ研修会を開催して下さいました、大阪府審判委員会の皆様、IRの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。</p>			

第 39 回 大阪 招待 高等学校 バスケットボール 大会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月22日 (金) ~		令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロシアム				
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、北村 仁様、大倉 哲也様、太田 令菜様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 9:45 ~				
	対戦カード	阪南大		VS	東海大相模
	主審(CC)	河崎亮介氏	副審(U1)	平出圭祐氏 (U2)	吉田拓哉
	講師/主任	大倉 哲也様、北村 仁様			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・このゲームをどのように進めていきたいのか、そのためのテンポセットができていたのかどうか ・ヘルプディフェンスのメカが三人で認識の違いがあり、情報収集が甘いと感じた ・ダブルコールが多かったのでプライマリの確認が必要 ・ファールバランスに差があったためマージナルでおけるものはおいてもよかった ・TFコールの後のコーチのインテグリティはどうだったのか ・フリースロー時のバイオレーションの際タイマーが動いていないかの確認などもっと意識して欲しい ・ファーストコールが本当に必要だったのか、マージナルとしておいておくことはできなかったのか 			
	自己の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・このゲーム一試合を通してファールバランスに差があり、前半で分析をしてマージナルでおいておくもの、吹かなければならないものはっきりさせるべきだった ・ファーストコールを発見の段階で吹いてしまい、分析まで見ることができず、軽い笛でのスタートとなってしまった ・TFコールの際TOとのコミュニケーションが取れておらず、その後に時間を止めて訂正をしなければならない状況ができてしまい、未然に防ぐことができたケースであった ・ヘルプディフェンスの認識が甘く、ダブルコールになることが多かった、次回の講習までに情報収集をさらに行い活かしていきたい ・最後になりましたが、今大会開催にあたり大会準備やTOを行ってくださいました大阪高体連の皆様、並びにチーム関係者の皆様、また今講習会を開催していただきました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、講師の皆様にご心より御礼申し上げます。 			

第 39 回 大 阪 招 待 高 校 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月23日 (土) ~				
●会場	はびきのコロセアム				
●講師	黒岡 和哲 様 茅野 修司 様 細見 竜太 様 北村 仁 様 大倉 哲也 様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 開講式 14:15 試合開始 16:00 閉講式 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 14:15 ~				
	対戦カード	大阪薫英女学院		VS	高知中央高校
	主審(CC)	正水 剛氏	副審(U1)	三富 千聖氏	(U2) 上田 昂虎
	講師/主任	茅野 修司 様 太田 令菜 様			
	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・判定をし、よく笛が鳴っていた ・鳴らして欲しいところでプライマリーで鳴らせていた ・落ち着いて物事を見れていた ・クロックの処置をよくできていた ・トラベリングの判定をもっとするべき ・クローズダウンポジションで見ることが多い ・マージナルにおいても良いケースがあった ・RSBQをもっとしっかり見てコール ・POCの確認 			
	自己の感想	<p>今回1試合を通してまず、クロックなどの表示物についてクルー全体で協力し管理できていてTOとのコミュニケーションもよく取れていた。また要所で判定を積極的にできていた。鳴らしたファウルのところでもノーコールやマージナルで置いていても良いところで瞬間で吹いていたところもあったのもっと長くプレーを見て分析してコールしないといけないと感じた。また前半からクルーでトラベリングの判定をするべきであった。レイトミートや突き出しのところでも鳴っていないのでそれが後半まで鳴らすことができなかつたのもっと整理していかないといけないと思った。</p> <p>メカニクスのところ、クローズダウンポジションで見ていることが多かった。ローテーションをしようかどうか迷うところも多くクローズダウンポジションで止まっていたのでまずは迷わずローテーションをしポジションアジャストをもっとしようとおもった。</p> <p>最後になりましたが、今大会開催にあたり大会準備やTOを行っていただきました大阪高体連の皆様、並びにチーム関係者の皆様、大阪府バスケットボール協会の皆様、講師の皆様に心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。</p>			

第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第 39 回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月22日 (金) ~		令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロセラム				
●講師	黒岡和哲様、細見竜太様、太田令菜様、茅野修司様、北村仁様、大倉哲也様				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 11:30 PGC 12:30 コートイン 12:45 トスアップ 16:00 閉講式(予定) 17:15 解散				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 12:45 ~				
	対戦カード	東海大相模		VS	箕面学園
	CC	北野	U1	山口翔氏	U2 増田和真氏
	講師／主任	黒岡和哲 様・大倉哲也 様			
	講評	・留学生にどのように対応するのかがポイントとなる試合だったにも関わらず、終始留学生がフラストレーションを溜めていた試合となっていた。留学生と日本人のマッチアップに対して、obviousなfoulをクルーで判定できておらず、ヘルドボールの場面で、留学生のインテンシティが高くなり、非常に危険な試合になっていた。その原因は、クルー全員のメカの理解度が低いからである。また2QでのGT/BIのケースでは、プレーに対してきちんと判定できておらず、クルー全体が知らないケースを作っていたことは反省すべきである。			
	自己の感想	・留学生へのマッチアップに対して、obviousなfoulを正しくコールできなかったことが大きな反省である。当然意識はしていたが判定できなかった原因には、自分のメカに問題があり、トレイルもリードも正しいポジショニングが出来ていなかった。プレーに対して1歩、2歩を適切に使いレフェリーディフェンスが出来る努力をしなければならず、良い判定のためには、メカやポジションが重要であることを改めて痛感しました。OFのシリンダーを侵して守るDefのfoulをコール出来なかったことや、2QのBIのケースを、トレイルから判定ができなかったことも反省である。CCとして、ゲームの重要な場面で、イリーガルなものに判定ができていなかったことや、クルーをリードできなかったことを今後に活かして、レフェリー技術を高めていきたい。最後になりましたが、今研修会をひらいてくださった、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。			

2024年度第1回ステップアップ講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回大阪招待高等学校バスケットボール大会					
●日程	令和6年3月22日 (金) ~			令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロセアム他					
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、北村 仁様、大倉 哲也様、太田 令菜様					
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)			はびきのコロセアム		
	8:30 会場到着 8:45 更衣後PGC 9:15 開講式 9:25 更衣W-up 9:35 コートin、コートインスペクション 9:45 実技開始 16:30 閉講式					
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 9:45 ~					
対戦カード	阪南大学高等学校		VS	東海大学附属相模高等学校		
主審	主審	河崎	U1	平出 圭佑 氏	U2	吉田 拓哉 氏
講師/主任	北村 仁 様、大倉 哲也 様					
講評	<ul style="list-style-type: none">・ダブルコールが多かった。プライマリに対する理解を深めてほしい。・4QのTFについては、宣する決断をしたことは良かったが、そのプレイヤーの心情を理解し、よりゲームにマッチした対応を心掛けてほしい。・コーチのインテグリティは気にならなかったか？ベンチのコーチ、プレイヤーの状況まで感じ取ってほしい。・新しいメカであるヘルプディフェンダーに対する意識が感じられなかった。クレーで事前に新メカニクスで臨むというコンセンサスが取れていたのであれば、それをオンザコートでもっと発揮してほしい。・後半にレフリーサイドが原因で試合が中断することが2、3度あった。好ゲームだっただけにもったいなかった。					
自己の感想	<p>今回の講習ゲームもCCの割り当てをいただき、まずはプレカン資料の作成や、当日のスケジュールについて事前にクレーと連絡を取り合などといった事前の「準備」を心がけました。その結果、講習会当日に慌てることなく試合に臨むことができました。近年CCになる回数が増えてきているので、上級レフリーにとって当たり前のこの習慣をより一層大切にしていきたいと思っています。</p> <p>試合内容としては、レベルの高い試合に対して、クレーでどのようなバスケットボールの試合にしていきたいか、そしてそれを実現するためにどのような基準を1試合通じて示していくかが課題となりました。また、クレー全体でダブルコールが多かったことはプライマリメカニクスの理解不足にあると思います。そして講師の仰るように、試合をスムーズに進行できなかったことは、レフリーサイドの確認不足が原因でした。今後は、上記の課題をなくしていくために、試合前のプレカンでメカニクスやPC、クレー間の協力についての確認をクレーと共にしっかりと行っていきたいと思っています。</p> <p>私個人の課題は、立場上「判定できて当たり前」という状況で、些細な取りこぼしをなくしていくこと、上級に求められる「深み」を今後も探求してオンザコートで実践していくことだと思います。</p> <p>今回の研修会を開催していただいた大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様に深く感謝申し上げます。</p>					

第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロシアム		
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター		
●スケジュール	令和6年3月23日 (土) 9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式(予定) 17:00 解散		
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 11:15 ~		
対戦カード	大阪薫英女学院 高等学校	VS	千葉経済大学附属 高等学校
主審	CC:重松 志保 U1:伊達 桃子氏 U2:中川 緋菜氏		
講師/主任	茅野 修司 様 細見 竜太 様		
講評	茅野様より ・1ゲーム通してクルーで協力してcallするべきところを意識を持って取り組んでいたと思う。その中で、POCや1プレーの大事さの理解をより深めることでよりよくなる。 ・HCのTLのアピールに対して、warningもしくはTFを宣する勇気と決断が欲しかった。 ・振り返りで反省点を多く言っているけれど、プラスな面が今回は多く見受けられたため自分に自信を持って欲しい。謙虚な姿勢は大事だけれど、謙虚だけでなく自己肯定感を高めて、今回のことを次への糧にすることが大事である。 ・CGとして本研修ゲームに準備してきたことを自信として、継続していくこと。		
自己の感想	本研修ゲームの要項・割当配信から、各々に各チーム情報や個人のトライしたいこと、意識していることを準備してきましょう。と、クルーと連絡を取り合いPGCからコミュニケーションがしっかりとれたことにより、1ゲームを振り返ると課題はありますが、無事に終えることができたのかなと考えます。CCだからといって1人で抱えるものではなく、みんなで円滑に取り組めるためにどうすれば良いのか考えた経験が自分自身の糧となりました。このようにできたのも、クルーの協力だけでなくTOとの連携など、さまざまなことが一つになれたところからだと考えます。 個人として、これまで経験させていただいたことから、1プレーの大切さを理解しながらプライマリの意識や吹きそがないこと、また、POCの確認など意識して取り組みました。まだまだ意識し続けたいいけないことや、改善点などがあるので、いただいたお言葉を大切に、自己研鑽に励みたいと思います。 最後になりますが、本日を迎え無事終えることができたのも、本研修会のために講師の皆様はじめ、関係者の皆様のご尽力のおかげだと思っております。心から感謝しております。		

2024 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回大阪招待高等学校バスケットボール大会		
●日程	令和6年3月23日 (土)		
●会場	はびきのコロシアム		
●講師	黒岡 和哲 様・茅野 修司 様・細見 竜太 様 北村 仁 様 ・大倉 哲也 様・太田 令菜 様		
●スケジュール	令和6年3月23日 (土) 9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 16:00 閉講式 17:15 解散		
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 14:15 ~		
	対戦カード	大阪薫英 VS 高知中央	
	主審	CC 正水 剛	U1 三富 千聖 氏 U2 上田 昴虎 氏
	講師／主任	茅野 修司 様・太田 令菜 様	
	講評	・選手にトラベリングなどの判定基準を審判からどう伝えていくかを考える。 ・CCを任されたことの意味を考える。 ・ゲームでどうCCMを発揮していかかがポイントになる。 ・いつもより声が出ていて良かった。 ・ブロック・チャージのケースでノーコールではなく決断すること。 ・クロック修正の時に、TO付近まで行かず声で伝えることも必要である。	
自己の感想	・ゲーム全体としてはクルー全員で協力し円滑な運営ができたと思う。 ・CCとしての準備不足・経験不足を感じた。TOミスへの対処であったり相手審判へのゲーム中の声掛けなど改善できる点があったと思う。 ・最後の影響を分析し、タイミングよく判定できているケースもあったが、自分のエリアで何も無い時間が続くとファウルを探してしまい、判定を急いでしまうケースがあった。1試合通じて安定した精神状態でレフリングができるようになる必要があると感じた。 ・判断に迷うケースで決断できず、ノーコールにしてしまうことがあった。 最後になりましたが、講習会にご協力くださいました講師の皆様へ感謝申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。		

2024年度第1回ステップアップ研修会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会					
●日程	令和6年3月23日 (土)					
●会場	はびきのコロシアム					
●講師	大阪府審判委員会インストラクター					
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)					
	8:30 会場入り・更衣					
	8:40 PGC					
	9:15 開講式					
	9:45 実技開始					
	16:30 実技終了・閉講式					
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 9:45 ~					
対戦カード	箕面学園高等学校		VS		近畿大学附属高等学校	
クロー	CC	池嶋 一幸	U1	貝崎 壘斗 氏	U2	藤内 拓真 氏
講師／主任	黒岡 和哲 様					
講評	<p>・クローチーフメンタリティーをもっと発揮してほしい場面があった。テクニカルファウルが必要な場面もあったので「変わったな」とIRに思わせるチャンスであった。効果を考えることも大切だが、思い切って宣してほしい。</p> <p>・クローワークもっとスムーズに行く。例えば、クローがファウルの判定をし、ベースラインでスタートするとジェスチャーしていた。しかし、もう一人のクローはフリースローを打たせようとしていた。シューターがボールを持ってから止めて、情報確認するのではなく、自分が情報を持っているならレーンアップする前に声をかけてベースラインスタートさせるべきだった。そうすることでスムーズなゲーム運営ができる。</p> <p>・クローのプライマリを尊重しているのは分かった。しかし、間違えることや勘違いをすることもあるので、常にいろいろなことに意識を配っておく。</p> <p>・今求められているものが何なのかを再確認する。</p>					
自己の感想	<p>・このゲームは判定やクロック管理はできることが大前提として、自分の課題である「ベンチやプレイヤーとのコミュニケーション」を重点的に取り組んだ。判定に対して何か思いがありそうな場面に関してはベンチとコミュニケーションをとりながらゲームをすすめた。しかし、異論表現やインテグリティのようなケースがあったときにテクニカルファウルを宣することはできなかった。吹くことでの効果を考えすぎて吹けなかったため、決断力がもっと必要だと感じた。</p> <p>・よりスムーズなゲーム運営をするためには何が必要かを再確認する。ファウルの後の処置一つに対しても言葉をかけるタイミングで変わってしまうので、ほかのクローがどんな動きをしているかアンテナを張っておく。</p> <p>・今自分が置かれている立場を考えながらゲームに臨んだつもりであったが足りなかった。自分が経験してきたことをもっと出せる準備をしなければならなかった。</p> <p>・今回このような体験をさせていただきましたことに、大阪府審判委員会の皆様に心より感謝申し上げます。この経験を次に活かしていきたいと思いません。ありがとうございました。</p>					

2024 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 自 己 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会					
●日程	令和6年3月23日 (土)					
●会場	箕面市第一総合体育館(スカイアリーナ)					
●講師	黒岡 和哲様、茅野 修司様、細見 竜太様、北村 仁様、 大倉 哲也様、太田 令菜様					
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)					
	9:15 集合・開講式 9:45 実技開始 10:00 PGC開始 10:30 更衣 11:00 コートイン、コートインスペクション 11:15 試合開始 16:00 閉校式					
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 11:15 ~					
	対戦カード	大阪薫英女学院		VS	千葉経済大附属	
	主審	CC	重松 志保氏	U1	伊達 桃子氏	U2 中川 緋菜
	講師/主任	茅野 修司 様、細見 竜太様				
	講評	・大きな問題もなく第1Qからgoodcallを積み上げた。 ・この試合のクルーとしての課題点は、両HCの振る舞いについて注意をしながらゲームを進行させる。放置するのではなく、クルーで協力し合い何かしらのアクションを起こすべきだった。 ・POCを今一度確認すること。				
	自己の感想	1試合通じてクルーと協力し、丁寧に判定できたゲームでした。その要因は、CCの重松氏を中心に各クルーが事前にチームのスカウティング等をしたうえで試合に挑めたことがクルーワークにつながったと思います。事前準備の大切さを改めて実感しました。 課題点は、講評にもありましたが、ゲームコントロールする力が必要だと感じました。コート上のみ視野をあてずベンチにも視野をあてること。その中でどのようなコミュニケーションをとるのが良いかは今後試行錯誤しながら挑戦していきたいと思います。また、POCが起きた現象と異なった種類を選択したのもあったので今一度映像などで確認が必要だと考えています。 今後も、コート上で自分の強みを存分に活かすレフリングができるように研鑽を積んで日々精進していきます。最後になりましたが、研修を企画・運営、また、開催して頂きました大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様にご報告申し上げます。ありがとうございました。				

2024 年 度 第 1 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第39回 大阪招待高等学校バスケットボール大会				
●日程	令和6年3月23日 (土)				
●会場	はびきのコロセアム				
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター				
●スケジュール	令和6年3月23日 (土)				
	9:15 開講式 9:45 実技開始 16:30 閉講式				
●担当試合	令和6年3月23日 (土) 13:00 ~				
	対戦カード	箕面学園		VS	近畿大学付属
	主審(CC)	池嶋 一幸 氏	副審(U1)	貝崎 壘斗 氏 (U2)	藤内 拓真
	講師/主任	黒岡 和哲 様			
	講評	バイオレションは明らかなものに笛が入らなければならない。トラベリングは明らかなものを逃さないように。OOBについてクルーとして情報を持っておくことが大切。知らないではなく、情報を持っておくことで、間違いが起きた時に正しく訂正できるようにしなければならない。箕面学園ACのTO中の言動はインテグリティの観点からTFがコールされるべきであった。			
	自己の感想	バイオレションの判定が課題であった。いつ成立したのかを確認し、明らかなものを逃さないようにしなければならない。 ファウル後の再開方法が選手やクルーにうまく伝わっていない場面があった。大きな声を使うことや、フロアを指すなどレポーターを工夫し周囲の人に伝わるようにすることが必要。 選手同士の小さなコンタクトにも笛が入ったことにより、ゲームが止まってしまうことが多くタフなゲームを作り出せなかった。コンタクトの事実、責任、影響を考えて笛を入れるか入れないかを判断したい。 消極的な姿勢が目立っていたと感じる。自信を持ってコールができるようにルール、メカニクス、バスケットボールについて研鑽を積みたい。 最後になりましたが、本研修会でご指導賜りました大阪府審判委員会インストラクターの講師の皆様、大会を運営いただきました高体連の皆様へ感謝申し上げます。			